

関川村立関川中学校



学校データ

【学級数】

6学級

【児童生徒数】

101人

【地域コーディネーター】

有

郷土を愛し、郷土に誇りをもち、未来をたくましく切り拓く生徒の育成

1 はじめに

学区は、村の中央を流れる荒川、そこに注ぐ大石川、女川、鍬江沢川、沼川などの支流に沿って散在する大小 54 の集落が9つの地域コミュニティとしてまとまる村全体であり、広範囲にわたる。児童生徒の減少に伴い、村内1小1中学校となっている。本年度、当校は全校生徒101名の小規模校であり、生徒は穏やかで素直な子が多く、生徒会活動や学校行事に協力的である。

今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、いくつかの行事は中止となったが、一昨年度の実践の記録と合わせ、次年度につなげていきたい。

2 取組の実際

(1) 九の郷ウォーク

学区の9つのコミュニティをウォーキングで回り、体力の向上を目指すとともに、地域の良さ、大自然を再発見する。また、地域ボランティアの方やそこで出会う村民の方にあいさつをして、村全体を元気にしていこうと活動している。

(2) 学校田植え・稲刈り

地域の方、JAの方の協力を得て、10月に村の「農林業まつり」で収穫米の販売と収穫米で調理したおもてなし料理を地域の方や保護者、来村された観光客の方にふるまっている。

(3) 大したもんじゃ祭への参加

村の一大イベントである祭に中学生も大蛇を担いで参加する。事前に、村の方から、祭の歴史などの話を聞く機会があり、誇りをもって祭に参加している。また、代々受け継がれている大里峠の大蛇伝説の紙芝居も地域の施設で上演し、訪れた方に喜ばれている。

(4) おもてなし活動

奏緑祭(文化祭)の合唱を学校の体育館だけでなく、国の重要文化財(渡



渡邊邸)で地域の方に披露している。

(5) 人権教育、同和教育公開授業

年3回の校内での公開授業、授業研修会を行っている。その内1回は地域・保護者に公開し、部落解放同盟関川高田支部の方をはじめ、村教育委員会、人権擁護委員の方々からも参観していただき、ご指導をいただいている。また、村主催の人権講演会が中学校を会場に行われ、

全校生徒が話を聞き、人権感覚を磨く場となっている。

人権講演会

(6) 職場訪問・職場体験

1年生は地域にある職場を訪問してのインタビュー活動、2年生は3日間の職場体験活動、3年生は地域の福祉施設を訪問してのボランティア活動を行っている。また、今年度、村教育委員会主催で関川村内の企業の方から話を聞く、「未来のハローワーク」が開催された。



(7) いじめ見逃しゼロスクール集会

学生全員と小学5、6年生が、グループをつくり、中学生がつくった様々ないじめに関する劇を見て、ディスカッションする。この様子は、保護者・地域の方を招いて参観していただく。参会した皆でいじめをしない、させない、見逃さないことを心に誓う場となっている。

3 成果と課題

及び本実践で育成された資質・能力

地域・保護者の行事への参加、協力体制は厚く、地域コーディネーターを加えた小中地域連携部により、情報交換、協力体制もスムーズである。それに加え教育委員会や関係機関との連携も密であり、様々な場面で支援を得ている。1小1中学校という小回りがきく環境が利点となっている。その中で子どもたちは郷土の宝、誇りとして村の様々な活動の重要な担い手となっている。生徒たちも活躍できることで自分の存在価値を見つけ、生き生きとした姿を見せている。

学校が地域と関わるほどに、中学生が関

わることを求められる場面も多くなり、依頼や意向に対し受け身感が否めないこともある。生徒の自主性を高める方向性を打ち出し、地域への学校発、生徒発の提案、情報発信を活発化させていきたい。学校職員と村が双方向な関係となり、目指す生徒の姿を一つにし、同一歩調でより強力なタッグを組み、よりよい学校、地域づくりができる体制を整えたい。

4 おわりに

関川村全体が学区ということで、地域と学校のつながりは深い。少子高齢化が進む中、中学生が村にとって大きな戦力として期待されている。村の行事に中学生が大きく関わり、活躍する場がたくさんある。その中で得た知識や経験は将来の生徒の生きる力になると信じている。中学校での体験を通して、自分の存在意義ややりがいを感じ、自己肯定感を高めるとともに、郷土を愛し、郷土に誇りをもち、未来をたくましく切り拓いていく生徒の育成に、今後も邁進していく。